

令和2年度岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議会議録

1 全体

- ・ごみゼロに向けた県内の取組、主体をリスト化し、これらを連携・連動させて社会の中に面的に展開されるような仕組みが必要（点から面へ）
- ・一般県民として目にするのは新聞広告くらいのように思われる。国の制度の後追いが多いように思う。食品ロス関連では、去年の法律制定の前に色々な動きがあって、県民の関心も高くなってきていたが、その関心をつかみきれてなかったように思える。脱プラスチック（マイクロプラスチック、使い捨てプラスチック）への関心が高まっているが、数年前から海ごみでの取組があるのでうまくタイアップしてほしい。

2 食品ロス削減

- ・食品ロス削減の促進に関する取組については、県民の認知度がそれほど高くなく、現状の認知（現在どの程度の食品ロスがあるか）を広げるための工夫が必要
- ・30・10運動の効果の検証が必要
- ・食品ロス削減を促進するための方策をしっかりと考えていくことが必要
- ・事業系食品ロスは、フードバンクだけでなく、排出量の多い業種に焦点を当てた食品ロス削減モデル事業や、食品ロスの利活用、流通システムの構築が重要と考える。優先順位は、リデュース、リユース、リサイクルの順で取り組むべき。
- ・家庭ごみ削減ヒント集を作成していただき、私たち家庭力をもって削減に協力したい。
- ・食品ロス削減計画策定のロードマップを示してほしい。
- ・食品ロス月間キャンペーンの概要

3 もったいない運動

- ・P2のもったいないフォーラムの開催内容をもう少し詳しく。
講演なら講師名、ステージならタイトル、参加人数だけでなく参加者の声など行動変容につながる・つながったことが分かる説明がほしい。
- ・小学生ファミリーエコチャレンジコンテストで、参加校が16校は少ないように思えるが、どのような働きかけをしての結果なのか知りたい。
- ・学校では夏休み前にかかなりの課題やお知らせのプリントが配られるため、チョイスされにくい現状があり、そこをブレイクスルーする働きかけが必要。
- ・もったいない運動の推進を今後も続けてほしい。
- ・小学生ファミリーエコチャレンジコンテストについて、「3Rの推進」「地球温暖化防止」にチャレンジした報告は家族の協力あればこそ成した作品もあり、

小学生が取り組む姿がすばらしいと感じている。今後も継続してほしい。

4 3R

- ・3Rに係る施策とその効果に関する情報・データを収集し、科学的データに基づいて施策の優先順位をつけ、PDCAサイクルを繰り返して実効性ある展開をお願いする。
- ・全国の3R施策の中で、Good Practiceに関する情報収集、関係者とのネットワーク作りに努め、効果が期待できそうなものは取り入れて、岡山県の中で社会実装できるようにしてもらいたい。プラスチック・食品ロスなどのホットトピックスに関するシンポジウムやワークショップの開催も有効
- ・イベントは単発で終わるのでなく、イベントで3Rの取組を体験してもらい、その後も生活の中で継続して取り組んでもらい、社会の中に定着するような仕掛け・仕組みが望ましい。
- ・循環型社会の形成に向けた3Rについては、小学校4年生社会科で重視している内容だ。社会科の3Rの授業とつないで、家庭科、総合的な学習の時間などで、もったいない運動やマイバッグ運動、食品ロス削減は、3Rの観点から生活を見直す実践として、具体的に取り入れやすい活動だと考える。本年度本格実施される新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が求められているので、小学生からの意識改革は、これからの社会を確実に変えると思う。授業の中でしっかりと呼びかけ、実践を大切にしていきたい。

5 プラスチックごみ

- ・有料袋にバイオプラスチックを導入するなど、再生材料の普及に向けた取組を県がリードしてほしい。
- ・レジ袋は、有料化前後の比較、効果検証、要因分析をするとよい。
- ・マイバッグキャンペーンについては、街頭や店頭などの普及啓発活動はコロナウイルス感染収束まで見合わせたほうがよい。
- ・資料2 エ 県内のレジ袋無料配布中止の実施状況について、令和2年3月1日現在で16事業者95店舗に拡大され、前に進んでいることがうかがえるが、全事業者数と全店舗数はいくつあるか。全体数が分かると、達成率等が分かりやすい。
- ・目に見えないウイルスから人々を守るため、ウイルスとの接触をシャットアウトする術として使用されるプラスチック。プラスチックごみの問題の契機は、海洋マイクロプラスチック。しかし、消費者が回収ルートにしっかり乗せることで、消費ルートからの海ごみ問題は起こらない。安価であり省エネルギーで人々の安心・安全に貢献する使い捨てプラスチックの有用性を改めて問い、3R啓蒙のよい機会ではないか。
- ・資料P8～の写真は、代表的なもののみでいいのではないか。
- ・P5（イ）のスーパーの1、2月の辞退率は25～26%であるが、P8のアンケ

- ート調査では持参率 50%以上となっているが、この差の説明をいただきたい。
- P25 おかやまプラスチックスマートの①プラごみ削減テクニックの審査基準を示してほしい。
 - 県民向けセミナーでは、ケミカルリサイクルをしている会社などはどうか。
 - マイバッグ運動・レジ袋削減事業の実施について、県統一ノーレジ袋デーである毎月 10 日に、声かけをしたい。
 - マイバッグ運動は、年々持参率も上がっており、80%以上の目標を目指していきたい。レジ袋無料配布中止、7月の有料化により市民が試されると思う。

6 海ごみ

- 日生西小学校は、海洋学習に取り組んできた。昨年度から、海ごみ削減やマイクロプラスチックの問題についての学習活動を総合的な学習の時間に位置づけている。本年度は実施の活動が難しいところもあるが、できれば、啓発事業に関わらせてもらいたいと思う。